

第1回介護給付費適正化事業について

1 概要

第9次北上市高齢者福祉計画・第8期北上市介護保険事業計画により、介護サービスを必要とする受給者に、過不足のないサービスを提供するため、介護給付費適正化事業として、ケアプラン点検を行うこととしていた。
これについて、介護給付費適正化システムを用いて、実施したもの。

2 実施の流れ

- (1) 令和3年3月分の利用者データを活用し、調査項目に該当する対象者を機械的に抽出し、各事業所に回答を依頼した。
- (2) 1回目はより過誤の可能性が高いものについて、行った。
照会件数及びチェック項目は「第1回介護給付費適正化事業回答結果概要」を参照されたい。
- (3) 回答シートは、セキュリティを考慮してパスワードを付してDirect Croud Boxからダウンロードをする方式とし、メールでの送付はURLとパスワードにとどめた。
- (4) 回答は、セキュリティを考慮してLogoフォームを活用し、提出いただいた。

3 結果判定について

- (1) 結果判定は、職員2名それぞれで評価を行い結果が一致していればそれを採用することとし、不一致であればその部分について再度検討することとした。
- (2) 判定結果は、以下のとおり5段階とした。

No	判定記号	判定区分	次回点検区分	基準
1	A	妥当	除外	当課に確認済みでかつ回答内容からそのサービス利用について妥当だと推量される理由等の記載があるもの。処理内容は2と差異はない（次回判定からは、Bと統合する）。
2	B	やむを得ない	除外	標準1。あくまで今回の調査が「原則に対して実態はどうか」というものであるため、適切な回答であればこの区分となる。処理内容は1と差異はない。
3	C	経過観察	対象	標準2。この調査の回答時点で適切かどうかの判断ができず、今後の本人の経過を踏まえて判断する必要があるものをこの区分とした。
4	D	点検対象候補	対象	照会内容に対する回答が不十分であること等からケアプランを点検する必要があると考えられるもの。
5	E	死亡につき除外	除外	利用者死亡につき、今後の点検対象から除外するもの。
6	F	その他	対象	その他。個別対応が必要なもの。

4 結果概要

No	項目名	項目計	A 妥当 (次回除外)	B やむを得ない (次回除外)	C 経過観察 (次回対象)	D 点検対象候補 (次回対象)	E 死亡につき除外 (次回除外)	F その他
1	総合計	211	8	157	34	3	8	1
2	過誤の可能性が高い給付	3	0	3	0	0	0	0
3	不必要と思われる給付	48	0	42	6	0	0	0
4	特に過剰な可能性がある給付	99	3	72	16	3	4	1
5	短期入所にもかかわらず長期利用の給付	61	5	40	12	0	4	0

- (1) 全体的に妥当であると判断できる結果となっており、介護事業所において適切に対処いただいていることが見て取れる。
回答内容からも、適切なアセスメントおよびモニタリング、また、それに基づいたプラン見直しを行っているという記載も多くみられた。
特に、5の「短期入所にも関わらず長期利用の給付」については、家庭環境やコロナ禍、また、特別養護老人ホームの待機といった問題が複合していることから、判断が難しいものも多くみられた。
一方で、今回の調査において、妥当だと判断できない（あくまで判断できないという趣旨である）ものも1割超あることから、継続的に確認していくこととしたい。
- (2) 今後について
200件を超える調査であることと、回答に詳細な記載を要求する部分もあることから、事業者の負担が大きい。
一方で、この調査を起点にプランを見直したと思われる記述も散見されることから、一定程度の効果はみられる。
このことから、今後継続して実施していきたいが、実施頻度については、年1～2回程度としたい。
また、今回でCないしはD評価となった対象者について、ケアプラン点検の対象として、問題点の把握に努め指導していく。

第1回介護給付費適正化事業回答結果概要

L1	L2	L3	項目名	件数	判定区分						プラン 見直し（済） 予定	1次	2次	3次	備考
					A 妥当 （次回除外）	B やむを得ない （次回除外）	C 経過観察 （次回対象）	D 点検対象候補 （次回対象）	E 死亡につき除外 （次回除外）	F その他					
			総合計	211	8	157	34	3	8	1	16	○			
1			過誤の可能性が高い給付	3	0	3	0	0	0	0	0	○			
1	2		給付管理サービス実績がない居宅介護・予防支援費	3	0	3	0	0	0	0	0	○			
1	2	1	予防サービスの給付がない予防支援費	1	0	1	0	0	0	0	0	○			
1	2	2	介護サービスの給付がない介護支援費	2	0	2	0	0	0	0	0	○			
2			不必要と思われる給付	48	0	42	6	0	0	0	4	○			
2	1		重度の寝たきり状態への福祉用具貸与	2	0	1	1	0	0	0	2	○			
2	1	1	重度の寝たきり状態への歩行器	2	0	1	1	0	0	0	2	○			
2	2		軽度要介護者（要支援1～要介護1）への福祉用具貸与	3	0	3	0	0	0	0	0	○			
2	2	1	要介護1以下で身体軽度状態への車いす	1	0	1	0	0	0	0	0	○			
2	2	3	要介護1以下で身体軽度状態への特殊寝台	1	0	1	0	0	0	0	0	○			
2	2	4	要介護1以下で身体軽度状態への特殊寝台付属品	1	0	1	0	0	0	0	0	○			
2	3		心身軽度状態への福祉用具貸与	5	0	4	1	0	0	0	1	○			
2	3	12	徘徊はなく歩行ができない状態への用具貸与の徘徊感知器	5	0	4	1	0	0	0	1	○			
2	5		心身軽度状態への口腔機能向上加算	11	0	8	3	0	0	0	1	○			
2	5	1	食事摂取や口腔清潔ができる状態への通所介護の口腔機能向上加算	11	0	8	3	0	0	0	1	○			
2	7		認知症軽度状態への認知症系サービス提供	27	0	26	1	0	0	0	0	○			
2	7	1	認知症軽度状態への認知症対応型通所介護	3	0	2	1	0	0	0	0	○			
2	7	3	認知症軽度状態への認知症対応型共同生活介護（短期利用型以外）	24	0	24	0	0	0	0	0	○			
3			特に過剰な可能性がある給付	99	3	72	16	3	4	1	7	○			
3	1		訪問介護の過剰な給付	88	3	65	13	2	4	1	4	○			
3	1	1	買物や簡単な調理もできる状態への訪問介護の身体介護	10	0	4	6	0	0	0	0	○			
3	1	2	買物や簡単な調理もできる状態への訪問介護の身体生活	3	0	3	0	0	0	0	0	○			
3	1	3	買物や簡単な調理もできる状態への訪問介護の生活援助	10	0	9	1	0	0	0	0	○			
3	1	4	買物や簡単な調理もできる状態への訪問介護の1回2時間以上	1	0	1	0	0	0	0	0	○			
3	1	5	訪問介護の身体生活の2人派遣	3	2	0	0	0	0	1	0	○			
3	1	6	訪問介護の生活援助の2人派遣	1	1	0	0	0	0	0	0	○			
3	1	7	訪問介護の身体生活の夜朝加算時間帯	2	0	2	0	0	0	0	0	○			
3	1	9	訪問介護の生活援助の夜朝加算時間帯	8	0	6	2	0	0	0	1	○			
3	1	11	訪問介護の身体介護を1回2時間以上	2	0	2	0	0	0	0	0	○			
3	1	12	訪問介護の身体生活を1回2時間以上	2	0	2	0	0	0	0	0	○			
3	1	13	訪問介護の身体介護を月に60回～89回（1日2回～3回程度目安）	28	0	22	1	1	4	0	1	○			
3	1	14	訪問介護の身体介護を月に90回以上（1日3回以上目安）	10	0	8	2	0	0	0	0	○			
3	1	15	訪問介護の身体生活を月に30回～59回（1日1回～2回程度目安）	3	0	3	0	0	0	0	0	○			
3	1	18	訪問介護の生活援助を月に30回～59回（1日1回～2回程度目安）	5	0	3	1	1	0	0	2	○			
3	2		福祉用具貸与の過剰な給付	11	0	7	3	1	0	0	3	○			
3	2	1	用具貸与が全国平均の約3倍以上	6	0	5	1	0	0	0	1	○			
3	2	2	予防用具貸与が全国平均の約3倍以上	5	0	2	2	1	0	0	2	○			
4			短期入所にもかかわらず長期利用の給付	61	5	40	12	0	4	0	5	○			
4	1		短期入所が月に20日以上	55	0	39	12	0	4	0	5	○			
4	1	1	短期福祉サービスが月に20日以上	54	0	38	12	0	4	0	5	○			
4	1	2	短期保健サービスが月に20日以上	1	0	1	0	0	0	0	0	○			
4	2		短期入所の認定有効期間内利用率50％以上	6	5	1	0	0	0	0	0	○			
4	2	1	短期入所が認定有効期間内利用率50％以上	6	5	1	0	0	0	0	0	○			
5			給付限度額の割合が高い給付	90										○	10月実施見込
6			サービスの偏りのある給付	38										○	10月実施見込
7			サービス提供の適切さを確認する必要がある給付	427											○ 実施方法検討中

1 過誤の可能性が高い給付分析等

(1) 判定分布

L1	L2	L3	項目名	件数	判定区分						プラン 見直し（済）予定
					A 妥当 （次回除外）	B やむを得ない （次回除外）	C 経過観察 （次回対象）	D 点検対象候補 （次回対象）	E 死亡につき除外 （次回除外）	F その他	
1			過誤の可能性が高い給付	3	0	3	0	0	0	0	0
1	2		給付管理サービス実績がない居宅介護・予防支援費	3	0	3	0	0	0	0	0
1	2	1	予防サービスの給付がない予防支援費	1	0	1	0	0	0	0	0
1	2	2	介護サービスの給付がない介護支援費	2	0	2	0	0	0	0	0

(2) 全体の傾向と今後の方針

- ① 全体的に、適正な処理を行っていると思われる。
- ② 3件のうち、すべてが「Bやむを得ない」ものとしての判定である。
- ③ 返戻に係る部分のエラーであることが確認でき、常習性はないため、今回限りのものとして判断できることから、特段問題にはしないこととしたい。

2 不必要と思われる給付

(1) 判定分布

L1	L2	L3	項目名	件数	判定区分						プラン 見直し（済）予定
					A 妥当 （次回除外）	B やむを得ない （次回除外）	C 経過観察 （次回対象）	D 点検対象候補 （次回対象）	E 死亡につき除外 （次回除外）	F その他	
2			不必要と思われる給付	48	0	42	6	0	0	0	4
2	1		重度の寝たきり状態への福祉用具貸与	2	0	1	1	0	0	0	2
2	1	1	重度の寝たきり状態への歩行器	2	0	1	1	0	0	0	2
2	2		軽度要介護者（要支援1～要介護1）への福祉用具貸与	3	0	3	0	0	0	0	0
2	2	1	要介護1以下で身体軽度状態への車いす	1	0	1	0	0	0	0	0
2	2	3	要介護1以下で身体軽度状態への特殊寝台	1	0	1	0	0	0	0	0
2	2	4	要介護1以下で身体軽度状態への特殊寝台付属品	1	0	1	0	0	0	0	0
2	3		心身軽度状態への福祉用具貸与	5	0	4	1	0	0	0	1
2	3	12	徘徊はなく歩行ができない状態への用具貸与の徘徊感知器	5	0	4	1	0	0	0	1
2	5		心身軽度状態への口腔機能向上加算	11	0	8	3	0	0	0	1
2	5	1	食事摂取や口腔清潔等ができる状態への通所介護の口腔機能向上加算	11	0	8	3	0	0	0	1
2	7		認知症軽度状態への認知症系サービス提供	27	0	26	1	0	0	0	0
2	7	1	認知症軽度状態への認知症対応型通所介護	3	0	2	1	0	0	0	0
2	7	3	認知症軽度状態への認知症対応型共同生活介護（短期利用型以外）	24	0	24	0	0	0	0	0

(2) 全体の傾向と今後の方針

- ① 2-1について、リハビリ及び自宅内移動に利用する旨の記載があったこと、担当者会議で適切に確認されていることから、「やむを得ない」または「経過観察」とした。
- ② 2-2について、脳梗塞後遺症や下肢麻痺等により転倒等の危険性があり、それを防止する目的で使用していることから、「やむを得ない」とした。
- ③ 2-3について、本人は「歩行能力がない」ものの、本人がそれを「認識していない」ための事故を防ぐ目的および夜間の安全の確保のために使用していることから、「やむを得ない」こととした。
- ④ 2-7について、おおむね認知症であるとの医師の診断があることから、妥当だったと史料される。一方で、現時点で問題は出ていないものの、家族の状況や日々の進行状況を総合的に判断して当該サービスを使用しているものもあった。これについては、「経過観察」としたい。

3 特に過剰な可能性がある給付

(1) 判定分布

L1	L2	L3	項目名	件数	判定区分						プラン 見直し（済）予定
					A 妥当 （次回除外）	B やむを得ない （次回除外）	C 経過観察 （次回対象）	D 点検対象候補 （次回対象）	E 死亡につき除外 （次回除外）	F その他	
3			特に過剰な可能性がある給付	99	3	72	16	3	4	1	7
3	1		訪問介護の過剰な給付	88	3	65	13	2	4	1	4
3	1	1	買物や簡単な調理もできる状態への訪問介護の身体介護	10	0	4	6	0	0	0	0
3	1	2	買物や簡単な調理もできる状態への訪問介護の身体生活	3	0	3	0	0	0	0	0
3	1	3	買物や簡単な調理もできる状態への訪問介護の生活援助	10	0	9	1	0	0	0	0
3	1	4	買物や簡単な調理もできる状態への訪問介護の1回2時間以上	1	0	1	0	0	0	0	0
3	1	5	訪問介護の身体生活の2人派遣	3	2	0	0	0	0	1	0
3	1	6	訪問介護の生活援助の2人派遣	1	1	0	0	0	0	0	0
3	1	7	訪問介護の身体生活の夜朝加算時間帯	2	0	2	0	0	0	0	0
3	1	9	訪問介護の生活援助の夜朝加算時間帯	8	0	6	2	0	0	0	1
3	1	11	訪問介護の身体介護を1回2時間以上	2	0	2	0	0	0	0	0
3	1	12	訪問介護の身体生活を1回2時間以上	2	0	2	0	0	0	0	0
3	1	13	訪問介護の身体介護を月に60回～89回（1日2回～3回程度目安）	28	0	22	1	1	4	0	1
3	1	14	訪問介護の身体介護を月に90回以上（1日3回以上目安）	10	0	8	2	0	0	0	0
3	1	15	訪問介護の身体生活を月に30回～59回（1日1回～2回程度目安）	3	0	3	0	0	0	0	0
3	1	18	訪問介護の生活援助を月に30回～59回（1日1回～2回程度目安）	5	0	3	1	1	0	0	2
3	2		福祉用具貸与の過剰な給付	11	0	7	3	1	0	0	3
3	2	1	用具貸与が全国平均の約3倍以上	6	0	5	1	0	0	0	1
3	2	2	予防用具貸与が全国平均の約3倍以上	5	0	2	2	1	0	0	2

(2) 全体の傾向と今後の方針

- ① 3-1-1について、Cが6件となっているが、同一人によるものであり、これについても現時点で必要性について判断が難しいことから、「経過観察」としたものの。
- ② 3-1-2から同12までは概ね「やむを得ない」という判断とした。
- ③ 一方で、3-1-13から同18までは判断が難しく、妥当かどうかについて判断が難しいものもあった。上記の理由の外、「警告/条件メッセージ」に対しての回答が対応していないものもあったことから、それについて「点検対象候補」とした。
- ④ 3-2-1について。「やむを得ない」がほとんどであり、残り1件についても利用終了に伴いケアプラン見直し済みであるため「経過観察」とした。
- ⑤ 3-2-2について、「経過観察」とした2件はケアプラン内容の見直しを行っているもの。「点検対象候補」としたものについては、ケアプラン及び家族状況等総合的に確認したうえの判断する必要があるため、その通りとした。

4 短期入所にもかかわらず長期利用の給付

L1	L2	L3	項目名	件数	判定区分						プラン 見直し（済）予定
					A 妥当 （次回除外）	B やむを得ない （次回除外）	C 経過観察 （次回対象）	D 点検対象候補 （次回対象）	E 死亡につき除外 （次回除外）	F その他	
4			短期入所にもかかわらず長期利用の給付	61	5	40	12	0	4	0	5
4	1		短期入所が月に20日以上	55	0	39	12	0	4	0	5
4	1	1	短期福祉サービスが月に20日以上	54	0	38	12	0	4	0	5
4	1	2	短期保健サービスが月に20日以上	1	0	1	0	0	0	0	0
4	2		短期入所の認定有効期間内利用率50%以上	6	5	1	0	0	0	0	0
4	2	1	短期入所が認定有効期間内利用率50%以上	6	5	1	0	0	0	0	0

(2) 全体の傾向と今後の方針

- ①4-1について、「特別養護老人ホーム待機中」、「家族が遠方につき、独居困難及びコロナ禍による世話をしに戻ることが困難」といった事情が多く、おもね「やむを得ない」と判断した。
- ②一方で、「経過観察」となったものも12件あるが、これはコロナ禍後の状況を継続的にみる必要があるものと、プラン変更を行ったものについて継続的にみる必要があるものの2通りの理由による。
- ③4-2について、ほぼすべてが当課で確認できたもの（Bになった1件も口頭にて当課に確認済みとの記載あり）であることから、妥当と判断した。